

ぼんしょう しんぎょうじ 梵鐘 (真行寺)

種 別	小松市指定文化財 工芸品
指定年月日	昭和46年11月2日
所 在 地	寺町(真行寺)

真行寺は、元は能美郡軽海郷松岡（現在の小松市松岡町）にある真言宗の寺院であった。蓮如上人に帰依して浄土真宗に転じ、慶長3年（1598）に寺町の現在地に移った。

この梵鐘は元禄3年（1690）に宮崎義一（初代寒雉）が鑄造したものである。義一は能登の人で、上洛して修業したのち金沢城下に住した。藩の御用釜師として、茶道裏千家の流祖・仙叟（宗室）と親交を結ぶなど名工として高く評価されており、また梵鐘の制作も多い。この鐘は、同じく寒雉の作である上宮寺の梵鐘（市指定文化財）の翌年に作られ、寒雉60歳の円熟期の優品である。

戦時中、多くの梵鐘が供出された中で、この梵鐘は供出を免れたものである。

撞座は直径12センチメートルで蓮華をかたどり、やや低めの位置についている。つり手（竜頭）の竜は力強く、左右対称の竜が撞座の方向に頭を向けている。正面及び背面の縦帯には「南無阿弥陀佛」と陽鑄されている。

